

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: Flushing Liquid 07/洗浄液 07/ Maintenance Liquid 07/メンテナンス液 07
品番	: FL007-Z-BA/FL007-Z-BB/FL007-Z-22 / ML007-Z-K2
Ink Ver.	: 1
会社名	: 株式会社ミマキエンジニアリング
住所	: 長野県東御市滋野乙2182-3
担当部門	: 技術本部
メールアドレス	: ink@mimaki.com
電話番号	: 0268-64-2413
FAX番号	: 0268-64-5580
緊急時の電話番号	: 0268-64-2281
	: 公益財団法人 日本中毒情報センター 中毒110番 * 一般市民専用電話 (大阪)072-727-2499 365日 24時間対応 (つくば)029-852-9999 365日 9~21時対応 * 医療機関専用電話 (大阪)072-726-9923 365日 24時間対応 (つくば)029-851-9999 365日 9~21時対応
(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合)	
推奨用途及び使用上の制限	: インクジェットプリンター用洗浄液

2. 危険有害性の要約

[GHS分類]

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分外
自然発火性液体	: 区分外
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分外
急性毒性(経皮)	: 区分外
皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2B
皮膚感作性	: 区分外
吸引性呼吸器有害性	: 区分1
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	: 区分外
水生環境有害性(長期間)	: 区分外

上記で記載が無いものは、分類できない、分類対象外

[GHSラベル要素]

絵表示



注意喚起語
危険

危険有害性情報

H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

H320 眼刺激

注意書

[安全対策]

P264 取扱後は手と眼をよく洗うこと。

[応急措置]

P331 無理に吐かせないこと。

P301+P310 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診断 / 手当てを受けること。

[廃棄]

P501 内容、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

[その他の危険有害性]

- ・高温になると引火、燃焼する恐れがある。

3. 組成、成分情報

単一物質・混合物の区分 : 単一物質
 成分及び含有量

成分名	含有量 [%]	官報整理番号	CAS No.	備考
ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	90-100	化審法番号: 2-744	112-15-2	PRTR政令番号: 対象外 安衛法別表第九通知物質: 対象外

4. 応急措置

吸入した場合

- ・気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・症状が改善しない場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。

・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
- ・まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

- ・口をすすぐ。
- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護

- ・火気に注意する。
- ・適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。有機溶剤用の防毒マスクがあればそれを着用する。
- ・換気を行う。

予想される急性症状及び遅発性症状

- ・吸入した場合: 咳、めまい、し眠、頭痛。
- ・皮膚に接触した場合: 皮膚の乾燥、発赤。
- ・眼に入った場合: 発赤、痛み、かすみ眼。
- ・飲み込んだ場合: 咳、めまい、し眠、頭痛。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・小火災: 炭酸ガス、粉末、散水、耐アルコール性泡消火剤
- ・大火災: 散水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤

- ・棒状注水
- ・散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

特有の危険有害性

- ・加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法、消火を行う者の保護

- ・散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・安全に対処できるのであれば、可燃性のものを周囲から取り除く。
- ・指定の消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密封容器は水をかけて冷却する。
- ・消火活動は風上より行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
- ・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・関係者以外の立入りを禁止する。
- ・作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
- ・適切な防護衣を着けていないときは、破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- ・漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- ・風上に留まる。
- ・低地から離れる。
- ・密閉された場所に立入る前に換気する。
- ・屋内では換気をしっかり行う。
- ・屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。
- ・付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
- ・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。

環境に対する注意事項

- ・河川への排出等により、環境への影響を起さないように注意する。
- ・環境中に放出してはならない。

回収、中和

少量の場合:

- ・土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
- ・吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合:

- ・土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- ・水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- ・危険でなければ漏れを止める。
- ・漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
- ・蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
- ・付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置すること。
- ・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- ・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

二次災害の防止策

- ・すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
- ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:

「8.8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気:

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項:

- 換気の良い場所で取り扱う。
- 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
- 工具は火花防止型のものを使用する。
- 取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
- すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- 眼に入れないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 環境への放出を避けること。

保管

技術的対策:

- 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
- 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
- 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
- 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
- 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管条件:

- 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
- 酸化剤から離して保管する。
- 容器は直射日光や火気を避けること。
- 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
- 盗難防止のために施錠保管する。
- 子供の手の届かないところに保管する。

混触危険物質:

「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料:

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

[管理濃度、許容濃度]

成分名	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度(TLV)及び 出展先
ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	設定されていない	日本産業衛生学会: 設定されていない ACGIH(TWA): 100mg/m3

[設備対策]

- ・屋内作業の場合、作業者が直接暴露されない設備とするか、全体換気装置または、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にすること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

[保護具]

呼吸器の保護具

- ・作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。

手の保護具

- ・有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。

目の保護具

- ・取り扱いには保護メガネ、顔面保護具を着用すること[保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)]。

皮膚及び身体の保護

- ・取扱う場合には、皮膚を直接曝露されないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

[衛生対策]

- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

性状(状態、色)	: 透明液体
臭い	: 溶剤臭
粘度	: 情報なし
pH	: 中性
融点/凝固点	: -25℃以下
沸点(初留点及び沸騰範囲)	: 217℃
引火点	: 116℃ (クリーブランド開放)
燃焼又は爆発範囲の上限下限	: 下限 0.9vol.%、上限 8.5vol.%
蒸気圧	: 13Pa (20℃)
蒸気密度	: 6.1
比重(密度)	: 1.010g/cm ³ (20℃)
溶解度	: [水]水に完全に溶解する [他]有機溶剤に溶解する
n-オクタノール/水分配係数	: 情報なし
自然発火温度	: 360℃以上
分解温度	: 情報なし
臭いの閾値	: 情報なし
蒸発速度	: 情報なし
燃焼性	: 情報なし
その他	: 情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性)

- ・通常の取扱いにおいては安定である。
- ・加熱により発火する。

危険有害反応可能性

- ・強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

- ・加熱
- ・高温

混触危険物質

- ・強酸化剤
- ・強酸
- ・強アルカリ

危険有害な分解生成物

- ・加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

その他の危険性情報

- ・情報なし

11. 有害性情報

[急性毒性]

成分名	経口 (rat)	経皮 (rat or rabbit)	吸入(rat) (蒸気)	吸入(rat) (粉塵、ミスト)
ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	区分外	区分外	分類できない	分類できない

[皮膚腐食性/刺激性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 区分外
--------------------------	-------

[眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 区分2B
--------------------------	--------

[呼吸器感作性又は皮膚感作性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 呼吸器感作性: 分類できない 皮膚感作性: 区分外
--------------------------	--------------------------------

[生殖細胞変異原性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 分類できない
--------------------------	----------

[発がん性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 分類できない
--------------------------	----------

[生殖毒性]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 分類できない
--------------------------	----------

[特定標的臓器/全身毒性-単回ばく露]

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 分類できない
--------------------------	----------

チルエーテルアセテート	
〔特定標的臓器/全身毒性-反復ばく露〕	
ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 分類できない
〔吸引性呼吸器有害性〕	
製品としては	
ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	: 区分1
〔その他の有害性情報〕	
情報なし	

12. 環境影響情報

一般注意事項

- ・漏洩、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

生態毒性

- 水生環境急性有害性：区分外
- 水生環境慢性有害性：区分外

各成分の環境影響情報

水性環境有害性

ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	急性：区分外 慢性：区分外
--------------------------	------------------

残留性・分解性

- ・情報なし

生態蓄積性

- ・情報なし

土壌中の移動性

- ・情報なし

13. 廃棄上の注意

- ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・廃塗料、廃溶剤、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理をする。
- ・容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・排水処理等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。
- ・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
- ・異種の塗料廃棄物を混合して処理する場合は、各種法規制に従って混合処理の可否を判断すること。

14. 輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

重量物を上積みしない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

国連番号 (UN No.) : 該当しない

国連輸送名
(Proper Shipping Name) : 該当しない

クラス (Class) : 該当しない

容器等級 (Packing Group) : 該当しない

〔国内規制〕

陸上規制情報 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
荷造り人は運送業者に運搬注意書(イエローカード)を交付する。

海上規制情報 : 非危険物

航空規制情報 : 非危険物

〔国際規制〕

海上規制情報 : 非危険物

航空規制情報 : 非危険物

15. 適用法令

消防法 : 第四類 第三石油類(水溶性)危険物等級Ⅲ

毒物および劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法 : 非該当

有機溶剤中毒予防規則 : 非該当

化学物質管理促進法 : 非該当

16. その他の情報

参考文献

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版
中央労働災害防止協会安全衛生情報センター
製品評価技術基盤機構(NITE)
メーカーMSDS等



安全データシート(SDS)

製品名: Flushing Liquid 07/洗浄液

07/Maintenance Liquid 07/メンテナンス液 07

SDS整理番号: 037-C150139

作成: 2012年05月18日

改訂: 2016年12月15日

本データシートは、作成時または改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂致します。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。